

研究課題(テーマ)	本学科の学生をロールモデルとしたキャリアビジョン形成の働きかけ		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	生物工学科	教授	生城真一
実施責任者	生物工学科	教授	占部大介
研究結果の概要			
<p>本プログラムでは、本学科の受験倍率向上、県内企業への就職促進を目指し、高校生に対する、本学科の学生(特に大学院生)をロールモデルとしたキャリアビジョン形成の働きかけを目的とした。県内企業に内定を得ている本学科の学部生1名、また研究・開発などの高度な専門職の内定を得ている大学院生2名を出身高校(富山県立呉羽高校、北部高校、砺波高校)へ派遣し、高校一年生に対して、現在取り組んでいる研究、その研究経験を生かしたキャリア形成、について30分程度講演し、30分程度の質疑・応答を行った。対応してもらえた訪問先では、県内就職に対する意識などに関する簡単なアンケートを実施した。3校のうち2校の訪問については教員も同行し、講演の様子を見学した。</p> <p>受験産業界が序列する大学偏差値は、必ずしも大学の教育力や研究力に相関しないが、本学に入学する学生のキャリアビジョンは、偏差値と同様に控えめである。本プログラムで、実際に県内の上場企業に研究・開発職などの高度な知識と技術を要する職種で内定を得ている学生のキャリア形成に触れることで、入学前の生徒が、「未来の自分の姿である」「県内でのキャリアビジョンが描ける」という意識を持つことを期待した。</p> <p>今回実施したプログラムは高校一年生が対象であったため、まだ活動成果を評価できる段階にはない。しかし、生徒にとっては先輩にあたるOB・OGの訪問という事もあり、より現実的にキャリアビジョンを考える良い機会になったように感じる。</p> <p>生徒から、高校生活の過ごし方、将来を考え始めた時期、県立大学を選択した理由、大学院に進学した理由などについて質疑があり、それぞれの学生の考えを分かりやすく伝えていた。訪問した学生は自らの研究活動にも力を入れており、後輩に大学生活で重要となる研究活動について特に熱心に話していた。</p>			
今後の展開			
<p>本プログラムの具体的な成果が出始めるのは、数年後になる見込みである。3年後の本学科の志望倍率、県内の志望者数、県内就職希望者数などが、本プログラムの具体的な成果を図る指標になる。そのため、その成果が見え始めるまでは、次年度以降も本プログラムに準じた形式でOB・OG訪問を継続するつもりである。</p>			